

# 収入向上・女性自立

## 織りに加えて、縫製研修も始まりました

— ビラーンの村アムグオのナバルタビ振興事業 —



← 事業で購入のミシンの基本技術を学ぶ研修生。中央は講師。

民族衣装のマロン  
(ビラーン語で Gintlo)  
を縫う研修生サリン

→



縫製研修では足踏みミシンの基本を学んだ後、直線縫いの練習に最適な民族衣装・マロンを縫いました。ファスナー付けの研修が終われば、小銭入れなどのナバルタビ織小物の縫製に進む予定です。

なお、現地の諸事情で、事業完了時期を3月末から8月末に延期することについて、例外措置として承認いただいた助成団体「WE21 ジャパンみどり」には、成果報告の一部として完成した織1巻をお届けの予定です。

## レイクセブ町の COWHED から

— 組合長ネニータさん、元マネージャー・ジェマさんによる短信 —

### <組合長ネニータさんから>

製品購入に加えて、対HANDS定期活動担当者の手当、組合員家族対象のカレッジ奨学金など、引き続きCOWHEDを支えていただけると聞いて感謝しています。

私はレイクセブ町の観光局の職員でもあるため、フィリピン・スポーツ庁の支援を受けた伝統スポーツを含むチボリ文化の保存、継承、広報の活動、また、国内外からのゲストの案内などで多忙な日々を過ごしています。

ゲストの案内先にはもちろんCOWHEDも含まれています。

COWHEDは今運営面で深刻な問題に直面しています。マネージャーとしてのジェナリンの仕事が多すぎて、過重な負担がかかっていることはわかっていますが、資金難でスタッフが増やせません。次回の役員会の最重要議案です。

とりあえず今は、町もCOWHEDも7月中旬のティナラク・フェスティバルの準備で忙しくしています。

### < COWHED のフェスティバル参加は？ >

ネニータさんの報告にティナラクまつりの準備でも忙しいとありましたので、COWHEDの参加について、マネージャー・ジェナリンさんはマニラの見本市で留守のため、元マネージャー・ジェマさんに確認しました。

文化会館内出店料は一日500ペソ、展示会場プロテックセンターは、全期間で2000ペソと経費がかかるため、ブース出展はしない。しかし、伝統文化だけでなく風光明媚で冷涼なレイクセブ町は、コロナダル市から車で約1時間と近いので、例年、ティナラクまつりの観光客が足を延ばしてくれるので、それに備えて品ぞろえで忙しいということでした。

昨年度はマニラの見本市も、レイクセブ町の店舗での売り上げも不振だったというCOWHED。今年こそと期待しています。

### <新奨学生はチョピンレットさんに決定>

以下、忙しいジェナリンさんに代わり、ジェマさんがCOWHEDに選考結果を聞き、さらに、奨学生の母親で刺繍技能を持つCOWHEDメンバーのノラさんに電話した結果、入手した新奨学生情報です。

氏名と年齢： Chiopinglet Fikan Jiogen

1991年10月5日生まれの26歳

在籍校と学年： SCMSI カレッジ地域開発専攻3年

応募理由： 経済的に授業料支払いが困難となり、やむなく2年で中退。どうしても勉学を続けたいと思っていたところ、HANDSの奨学生募集を知った。

月額1,000ペソと少額ですが、勉学への意欲を捨てずに、機会を待っていた26歳のチョピンレットさんに決まってよかったと思います。なお、今回間に合わなかった写真は次号でご紹介の予定です。

### <ティナラク・フェスティバルとは？>

レイクセブ町を含むサウスコタバト州創設記念の祭りとして、毎年7月中旬に、州都コロナダル市で開催され、各市町村によるパレードや物品販売などでにぎわいます。今年は12-18日に実施されます。

